

平成29年度 第1回 山梨県文学館協議会 会議結果記録

日 時： 平成29年10月26日（木） 午後2時～4時20分

場 所： 県立文学館研修室

参加者：

- 委員 津久井豊徳、石川芳子、杉原克彦、水石和仁、古川裕佳、廣瀬孝嘉
出澤忠利、澤谷滋子、赤井美知江、高橋恵美子、清水千春、小俣岳
- 県教育委員会 学術文化財課 百瀬課長、海老根主任
- 文学館 三枝館長、上島副館長、古屋次長、高室学芸幹、保坂学芸課長
飯沼資料情報課長、望月総務課主幹、中野学芸員（学芸担当リガー）、
石田主幹・教育主事（教育普及担当リガー）、水上副主幹（資料情報課リガー）
- 指定管理者 岩野SPSやまなし支配人、高橋SPSやまなし副支配人

会長及び副会長選任

山梨県附属機関の設置に関する条例の規定に基づき、委員の互選により、廣瀬孝嘉委員を会長に、長谷川千秋委員を副会長に決定。

議事

- (1) 平成28年度事業報告等について
- (2) 平成29年度事業報告及び予定等について
- (3) その他

司会 上島副館長

議事録

- ◎館長挨拶
- ◎会長挨拶
- ◎事務局職員紹介
- ◎議事（議長は規定により会長が務めた）

○事務局から会議資料により、議事（1）～（2）を説明

○議長

文学館の方から丁寧なご説明をしていただきました。文学館全体の事業の様子がご理解できたのではないかと考えています。今の報告等を見たり聴いたりしながら、どんな感想を持ったか、ご意見、ご質問などありましたらお伺いしたいと思います。何かございますか。

○A委員

自分は専門家ではないので、一般の方々の代表としてきているので、ひょっとしたら的外れているかもしれませんが、とりあえず質問を2点お願いします。資料の8頁に文学館の観覧者数の推移がありますが、だいたいここ10年を見てみると2万人台できているが、平成26

年度は合計が8万と突出して多いようですね。26年度に突出して多いというのは、たぶんこのとき話題の何かをやったと思うのですが、その原因というか理由を知りたいというのが1点。それから戻りまして6頁、本館に求められるものと書いてあって、その二行目に目的がありますが、「文学に対する知識・教養の向上をはかり、県民文化の発展向上に寄与することが目的」ここに目的ははっきり書いてある。ところがその後の丸印のところ平成25年度に「基本理念」を制定したと書いてあるが、この基本理念とはどのようなものか。基本理念が一番大事なものだと思う。これを書いてあるのだが、これが何かということが全然触れられていないので、「こんな事を大事にしている」ということを簡潔で結構ですから、お答え頂けるようでしたらお聞きしたいと思います。

○議長

2点ご質問がありました。事務局の方からよろしくお願いします。

○事務局

まずひとつ目の平成26年度の観覧者数が非常に多く前後と比べて突出してというのは、NHKの朝の連続テレビドラマで、「赤毛のアン」の翻訳者の村岡花子をモデルにした「花子とアン」が放送されました。このときに村岡花子の企画展をしたところ3万人余という非常に大勢のお客様にお入りいただいた特別な展覧会になりました。終了後、常設の方に村岡花子の特設コーナーを設けましたので、その後も、多くのお客様にお入りいただいた結果に繋がったと思います。理念の方は、後ほどお持ちして見ていただくようにしたいと思います。(会議終了後配付)

○A委員

目的はよく探すと、資料の法令のところに書いてあるんですよ。目的については一番最初に記載してあります。それはわかるが、平成25年に理念をつけたというのはすごい必要性があったと思う。だから理念を制定したと思うので、目的とか理念というのは一番大事なことだと思うので、なるべく目立つ前の部分に出してもいいという気がします。

○議長

基本理念を決めたのであれば、しっかり明示して欲しいということでした。

第2点目はNHKの「花子とアン」の放送の力というか、メディアの力が大きいのですが、今日も報道関係の委員も見えておりますので、ぜひご協力よろしくお願ひしたいと思います。

○B委員

指定管理者の下半期に予定している活動というところで、キャッチコピーを用いた広報活動というものがございませうけれども、これはたとえば子どもたちに募集をかけたとか、それで選んだキャッチコピーでしょうか、それともこちらの文学館で全部考えたものでしょうか。

○事務局

広く公募というのはなく、ある程度専門の方に作っていただいております。作る選考過程の中で、学芸いわば県職員の方と指定管理者と一緒に作っております。

○議長

よろしいですか。他にどうでしょうか。

○C委員

活動を見せていただきまして、本当に素晴らしくよくやっていたらっしゃるなということを感じました。先ほど館長さんが誇り高くおっしゃったのが、とてもよくわかりました。その中で、これは何故かしらというのがひとつありまして、今年の7月8月に行われた「作家のデビュー展」これはとても興味深い。私は観られなかったのですけれども、すごくよかったのではないかと思いますけれども、これに8300人の若い子たちが集まった、それをフリーペーパーとツイッターで行ったという報告がありましたが、本当にこれだけで8300人という人が集まったのかというちょっと基本的な疑問ですね。どういう高校生たち、どういう人たちが集まったのかなどは、何かアンケートなどで記録が残っていませんかでしょうか。

○事務局

まず広報活動、確かにツイッターですとか、先ほどご紹介したパワーポイントの中でご紹介したものはごく一部でございまして、アニメや書籍も絡んでいると思いましたので、アニメの書籍を売っている県内の本屋さんにもチラシ等を置かせていただくといったことも試みております。

ただ、やはりツイッターの情報というのはすごいなと感じておりまして、展覧会が始まる前から、非常に情報が飛び交っているという状況でした。一つには、学芸課が用意した缶バッジ、これはオリジナルの缶バッジですので、これを欲しいということで非常に人が集まったと捉えております。あと実際にお越しになったお客様なのですけれども、若い学生さんだけではなく、その学生さんとお母さんですとか、大学生から高校生くらいまで友達同士で来ていただいています。ちょうど夏休みという期間でもありましたので、そのようなお客様も多かったのも特徴的のひとつと思っております。

○C委員

ありがとうございます。観覧者はほとんどが県内ですか。

○事務局

申し訳ございません。住所に関してはきちんと統計をとっていないのですが、ただいつもの展覧会にくらべると県外の方が多かったと思います。

○C委員

ほかにはツイッターを使っただけの、広報など他にはなさっている例などはございますか。

○事務局

文学館のツイッターの利用ですが、以前からこの企画展以外にもツイッターを使って広報しております。今回観覧者が非常に多かったのは、ツイッターの威力もあるとは思いますが、その元の漫画が、若い子たちに非常に人気があるということがまずベースにあると思います。

若い子に人気ですからツイッターで発信すると、あっという間に同じ趣味を持つ人たちに拡散したと思います。相乗効果というふうに我々は理解しています。

○C委員

ありがとうございました。

○議長

よろしいでしょうか。オリジナルバッチがあつたり、漫画の効果があつたり、学生同士だったり、友達同士だったり、親子が来たりということで、一人ではなくて連れが必ずいるとか、そういうところも多くなったというふうなお答えでした。

○D委員

丁寧なご説明どうもありがとうございました。とても色々なことに挑戦なさって、努力なさっていることがよくわかりまして、感謝しております。私は美術館と文学館のボランティアをさせていただいていますが、文学館のショップに座っていると、ガラスを通して美術館の方が見えるんです。美術館にはお客様がどんどん、どんどん入って行くんですが、文学館の方にはなかなかお客様の足が向きませんで、どうしたらこちらの方に足を向けてくれるのかということ、いつも思っている訳です。やっぱり県民の皆さんが観光客、また外国の方をもっと身近に感じて頂くということが必要かと思うんです。身近にっていうんですが、特に若い人たちですよね。小学生とか中学生とか。小中学生の時に学校で利用してもらって、こんな立派な県立文学館があるんだということ、ぜひ身近に感じてもらえるように紹介したいないつも思っております。今日の報告の中にも小・中学校や高校に出前授業等で出かけていただいてすごく努力していることがわかるんですけど、山梨県の教育方針という形で、県内の小中高生が一度は県立の博物館、美術館に足を必ず運ぶというような、なにかそういう方針がないと啓蒙ができないとすごく感じます。外国に行きますと、子供たちが本当に身近な感じで美術館・文学館を引率されて利用していると思うんですよね。ああいうふうな身近さというのが小さい時からの体験になって大人になってから、また行こうかなということに繋がる土台になる気がいたします。

それとこの芸術の森公園なのですが、自然がすごく素晴らしいですよ。今、SPSさんの説明がありましたけれど、美術館のアートツアーがございますよね。30分くらいでやっておりまして、あれとっても良いと思うんです。先程説明で、文学館の飯田蛇笏・龍太の碑のツアーを後期になさるって言っていたんですが、実はそれを提案しようと思ってきたんです。ぜひやっていただきたいと思っているんです。芸術の森公園は銀杏並木が本当に素晴らしくって、遠方の方から写真を撮りに来るほどですよ。それから、文学館の南の日本庭園も、季節になりますと本当に素晴らしいです。その季節季節に遠くから足を伸ばしてもらって、さらに文学館にも入っていただけたらありがたいです。鳥取の足立美術館は、庭園の素晴らしさで全国のランキングに入ってますよね。芸術の森公園も決して劣らないんじゃないかと私は思うんです。それをぜひ広報していただき、皆様に来ていただきたいという気持ちがあります。飯田蛇笏・龍太の立派な碑がありますが、実は今の若者は蛇笏・龍太といってもあまりピンと来ないですよ。ですので、ぜひ碑を巡るツアーを行い、その時に周りの自然も一緒に楽しめることができれば、と思います。例えば、春は桜がとっても綺麗で、初夏になるとアヤメが素晴らしいので

す。それから、秋は楓とかイチョウがあり、冬も富士山は相変わらず綺麗なんですけれども、四季を通じてPRするものがございますので、そういう自然と蛇笏・龍太の碑を併せて紹介するツアーが良いと思います。それから、文学の柱という木の札が立っておりまして、個々に短歌などが書いてあるんですよ。そんなものを含めて紹介できたらなと考えておりました。是非それを実現していただきたいと思います。また、文学館にも美術館と同じようにボランティアの協力会がございまして、ツアーに協力できるならば良いのではないかと思います。ちょっと長くなって申し訳ありませんけれども以上です。

○議長

文学館と美術館の協力会の仕事をなさっていただいている、日頃からこの文学館、美術館の周辺で活動なさっているということで、一番よく間近で見ている方がお褒めを頂いていることが素晴らしいことだと思います。色んな視点がございました。美術館は観る、文学館は観るだけではなくて読まなければならないという違いはある。でも小さい時に、ここに素晴らしい施設があると知ること、大人になってからまた来ようという気持ちになるのではないかと。事だとか、あるいは庭園が素晴らしく、四季折々の自然とまわりの景色、景観がマッチして、こういうところから文学が生まれるんだということも併せて掴んでもらいたい、というふうなことのようでもございました。

○E委員

色々な報告ありがとうございました。高等学校の校長という立場で、意見というか感想を述べさせて頂きたいと思います。大学の先生がいらっしゃる前で恐縮ですが、来年の4月に入ってくる生徒たちから大学入試制度が大きく変わります。高等学校ではもう今の段階で、どういふふうに受け入れようかということ、ものすごく全国的に苦慮しています。今までの知識偏重の試験ではなく、いかに探求的な活動を高校時代にしてきたか、それを大学入試でどういふふうに見てもらえるのか、プレゼンテーション能力というのは非常に重視されてくると思います。これは大学入試だけでなく、大学を出て企業に入る場合、プレゼンテーション能力というのは非常に大きな要素になってきます。昨年、文学館の学芸課長に、うちの生徒たちが探求プロジェクトをやっているんですけども、二つか三つのグループを対象にプレゼンの仕方、それから展示の仕方、パネルの作り方等を1時間くらいレクチャーして頂いたら、その子たちがガラッと変わったんです。プレゼン力も展示力も。今年はぜひそれをもっと広げて拡大して、一年生、二年生全員を相手にレクチャーして欲しいと考えているんです。これからは本当にこういう施設と連携していかないと、学校教育そのものが非常に立ちゆかなくなってくる可能性もある、そんな気がしております。博学連携と簡単に言いますが、全国の文学館では博学連携＝アウトリーチで止まっているんですね。県立文学館の場合は、アウトリーチはもうとっくからやっていて、幾つもパターンがあって非常に充実している。そしてさらにその先を行って、教育課程との連携をしています。これは非常に先進的でたぶん全国でもトップクラスの連携が出来てるのではないかと思います。是非これを広めて、続けていただければと思います。先ほど、小学生中学生の頃からこういう施設があればこういうところへ来てというお話があったけれども、私の学校は大月であって、大月から甲府まで来て、さらに甲府駅から文学館まで来るとなると、非常に時間も交通費もかかるんですね。甲府へ来るなら立川、もっといえば新宿辺りまで行ってもそれほど変わらないような条件なんですね。なかなか生徒に「ち

よっと行ってきなさい」と言いづらいところがありまして、生徒が来づらいのであれば色々な形で、逆に普及の皆さんや学芸の皆さんが、遠いですがけれども足を運んでいただいて、生徒に、文学館の良さや文学の話をしてくれる機会を作っていただければと思います。

それから、30年度からまた新しい新教育プランが策定され、さらに学校の統廃合が進んで行くと思います。小学生・中学生の数の減り方っていうのは、もうちょっと歯止めがきかないような状態ですので、統廃合が進んで無くなってしまいう学校のものを文学館で集めたり、展示したり、そういったことができたなら面白いのかなと思います。文学館としての、より身近な立ち位置が作れるのではないかと考えております。具体的には、山梨県内の小中学校、高校も含めて校歌の作詞者などは、びっくりするような有名な面々が名を連ねていますが、それがもう歌われなくなってしまふことも目の前にきているんです。ぜひそれを調査、紹介するようなところも、まだ資料が残っているうちに、なんとか実施してもらえればと思います。

観覧者の人数を増やすという事に関しては、先ほど文学館から説明ありましたが、漫画であるとかテレビにリンクしたものをやれば一時的に入ってくるわけで、それは確かにこういった施設として、一人でも大勢の来館者を呼び寄せるといことは非常に大事なことだと思いますけれども、文学館としての王道というのがあると思います。新しい物も、それを取り入れられる時期である夏休み辺りはどんどんやっているといいのではないかと考えていますが、でも秋の企画展は文学館として素晴らしい展示を行って普及させていく、そんな形で考えていただければ嬉しいと思います。

○議長

ありがとうございます。大変大きい話になりました。これからの教育の中で、何が求められていくのか、どういう人材を育成していくのかということの中で、探求的な活動と力が求められているんだと、そのような中で都留高校が文学館と連携をして、文学館の方に来ていただいて講義をしていただく中で、飛躍的に子供たちの力が伸びていると。専門家が授業をすることが、どんなに有用なことかという証のお話であろうかと思っております。そういう意味で連携をこれからもっと広げていかなければならないのかなと感じました。学校が文学館の教育課程の事業と連携をして非常に助かっているというお話がありました。それから、子どもがこれから少なくなると学校の統廃合がどんどん進んで行くと、文学者が作詞した校歌が忘れ去られていく、そういう心配があると、そんなところも配慮して欲しいというご意見もありました。そして、人をたくさん集めるということもあるけれども、文学館の王道を歩んで欲しいという励ましがございました。何かこのことについて皆さんの方でご意見ございますか。館長さんどうですか。

○館長

文学館には多様な使命があります。ひとつは、これは県の予算で運営しているもので必ず求められるのが、県民にどれだけ還元できているのかということですね。そのひとつの目安というのは、県民がどれだけ文学館に来て、文学館の色々なものを楽しんでいったかというもの。入館者というのは、非常にシンプルな分かり易い指標の一つです。ただ今、小俣先生がおっしゃったように文学館にはもうひとつ、別の尺度の大切な観点があると思います。僕はそれを「たった一人の至福」、その至福を提供するのが文学館の使命だと思っています。たとえば、雨の日でほとんどの人が来ない平日の雨の一日。たった一人の人しか来ないけれども、その人が蛇笏、龍太の展示をじーっと2時間くらい観ながら、小さな小さなヒントをもらって帰る。そう

いうふうな場を提供するのも文学館の役割ではないかと思えます。やはりこの両面を視野に入れながら活動していくのが文学館、ことに県立の文学館の役割だと思っておりますので、ぜひ両面から、いろいろ支えていただきたいと思います。

○議長

ありがとうございます。その他に何かご意見ございますか。

○F委員

高校教育のお話を伺いまして、大学の方でも気になっていたことでしたので、少しお時間いただければと思います。資料の17頁18頁を拝見しております、すごく小中高へのアウトリーチというのが数としてわかるようになっているのですが、本学、私が勤めている都留文科大学は14頁にある国文学科のオリエンテーションでお世話になっております。私は大学一年生を毎年担当しているのですが、大学一年生には必ず文学館で何を観てきたかということを知っています。それから5月の授業は、芥川龍之介の遺書の分析から入るんですけども、そうすると必ず観てきたことを覚えていて、その言葉に反応したりという感じになっていて、本当に有り難いと思っております。でも、今日拝見していて資料の中に大学という項目があまりないと思っております、大学との連携というのはどのように行われているのか。17頁には山梨大学の国文学会のことも出てきているんですけども、大学との関係についてはどのようにお考えになっているのか。私自身は自分の学生が甲府出身の学生も多いので、できるだけ自分で行って調べるようにと言うと、甲府の子はだいたい行って来て資料を見せて頂いたりするんです。なので、大学生は放っておいても来るのかもしれないんですけども、そういった大学との連携みたいなことは何かお考えになっていらっしゃるのかどうかをちょっとお伺いしたいと思ったのと、それから後は全体の活動が先ほどのE委員のお話とも関係するんですが、文学館全体の活動が、私たちが今求められているアクティブラーニングのようなことにすごく関わっていて、大学という組織の方がよっぽど遅れているなと反省させられたんですけども、そういった大学の授業、ゼミ活動とかが、やっぱり文学館と繋がってアクティブラーニングになっていくといいんだろうなということを考えていて、それは私が勤めている大学だけではなくて、全国の日本文学をやっているゼミというのはまだまだたくさんあるわけで、そういったゼミ活動などに関わっているのかどうかということをお伺いしたいと思っておりました。

○議長

大学との連携をどのようにお考えですか、ということだと思います。

○事務局

おっしゃいますように大学生の方々には、もっと文学館を活用していただきたいと思いますし私も思っているんですけども、小中高等学校のように学校単位とか学年単位でお越しいただくのは、機会がなかなか難しいというのが現状でございます。ただその先生の主催するゼミ単位で、人数は少人数でありますけれども大学生が津島佑子展に来館された例もあり、観覧は少しずつではありますけれども頂いております。できるだけ日本文学を学ぼうとする生徒さんと直接やりとりをされる大学の先生方に、文学館の活用方法についてご理解頂けるような、さらにきめ細かいやりとりが必要だとお話を伺いながら思った次第です。

○事務局

大学生の方には、学芸員実習の受け入れをだいぶ前から当館では承っております。今年は受け入れがなかったのですが、だいたい毎年数名の学芸員実習の方を受け入れております。あと、インターンシップとして毎年、おもに夏の時期に、一日ないし数日、数名の学生さんが来て、当館のいろいろな事業を体験することを、各課で対応させていただいております。

○G委員

私自身、違う館の運営に関わる者として、時々こういう館のことを考えることがあるのですが、文学館、美術館、科学館、博物館等、何のために作ったんだろうといつも考えるんですね。これはたぶん、行政の方々の最初の部分で、県民の方々にある程度文化的な要素を上げようとしているのではないかと思います。たまたま箱があるので、各々切り口が違うかも知れませんが、そこをもう一度押さえてやっていただくと、大変面白いことができるかなと思っております。企画展、つまり箱よりも中身であろうというふうに考えておりますので、これはたぶん5年10年20年30年先のことを考えた文化的な投資ではないか。投資というからには、必ず回収が必要であろうと。必ずその人たちが県に対して、地元に対していろいろな恩恵を戻してくれると考えておりますので、企画展もしくは色々の企画は是非とも吟味してやっていただいて、戻ってきて頂きたいというのが本音でございます。

もう一つ、先ほどの来館の関係のことなんですが、1万人以上入られるのはほとんど地元の方が知っている人の企画展ですね。これはもう一回、地元の関係の色々の文化の方、作家の人とか、それを支えている人、こういう企画展を是非すすめて頂いて、掘り起こして頂くともっと身近になるのではないかと考えました。

○議長

民間の方ならではの視点からですね、大変な投資をしたわけですが、そういうことの回収も当然必要なんだということで、県民文化がどのように向上していくのか、向上してきたのか、そういうふうな視点も大事ではないかということでした。来館者の多い展覧会を見ると地元に関係ある人が多いけれども、それで良いのかどうかと。ということも考えて欲しいということだったと思います。その他、何かございますか。

○H委員

文学館の敷居をいかに低くということに取り組んでくださっていることをたくさんの資料から拝見させて頂きました。小中学校に勤務する者としては、いかに子供たちに本を読ませるかということで、実は昨日、会議があったので県立図書館へ行ってきました。最近の県立図書館は利用者数が日本でも2位ですよ。夜だったのですが、見渡すと制服を着た高校生が勉強して帰って行く。その姿を見た時に、利用者数は多いけど図書館の貸出数はどうなんだろう、つまり中身の部分はどうかということを感じました。私は去年まで竜王北中学校に2年間勤務していたのですが、「朝読書」が6年以上定着していて、8時25分になったら10分間一言も口をきかないで子供たちが本を読むんです。それを理想として、今の田富中学校へも持って来たんです。時間になっても着席するのに2〜3分かかることもあって時間のロスもあるけれど、本の内容も問題なのです。子供たちは今、色々な情報がありますし、HOW TO

ものとか、面白おかしく書いてある「残念な何とか」とか、辞典的なそういうものを喜んで読んでいる。それで駄目じゃないんですけど、じゃあ一体子供たちが日本文学、文学というものに触れる機会がいつあるのかを考えた時に、今日の資料にもありますように、もちろん校外活動とかも足を運ぶという意味ではいいのですが、そこに来た子供たちが文学館の展示物についてどんなふうに捉えて、今後どういう風に自分なりに捉えていくかっていう問題があると思うんです。やはり私は、子供たちの文学への知的な好奇心をくすぐったり、文学の扉を開くのは、やはり教師の役割が大きいと感じています。この資料にもありますように、各種団体への普及活動として、校長会とか国語科、やはり国語の授業で文学の扉を開くというのが一番手っ取り早い方法であるし、あとそれぞれの学校に司書がいますが、その学校司書の研修会、やはりこの辺の研修をきちっと設けることによって、子どもに還元できるのではないかと思います。今の生徒たちを見て、そういうものに触れさせる機会を持てる環境をいかに整備するかというのを私は考えていて、読み聞かせなんかありますよね。今度11月に読み聞かせをしますが、図書館の司書と考えると、もう限定して「高瀬舟」と「吾輩は猫である」と「走れメロス」をそれぞれ1, 2, 3年生で分けてやっていくことにしました。子供たちの詩とかそのようなものでも良いのですが、やはりどこかで注入する必要があるかなということを感じています。ということで、教育課程の中にいかに普及するかというのは学校教育の課題でもある。現に本校でも、今、文学館から宮沢賢治の移動文学館をお借りして、職員室の入口にば一と展示してありますが、そこで先日図書館の司書に指導して、もう2週間経つけど同じ物ばかりじゃなくて、宮沢賢治の本はもっとあるよねと話したのです。やはりその辺の提供する人の教育というのも、すごく大事だなということを感じています。以上です。

○議長

学校現場の方のお話で、指導者の在り方への関わり方が大事だというお話だったと思います。意見をうかがって参りましたが何かその他ございますか。よろしいでしょうか。色々な意見が出ましたが事務局では、またこれらを参考に生かして欲しいと思います。

3番のその他でございますが、事務局から何かありましたらお願いします。特にないですか。では、議事につきましては承認されたということとしてよろしいでしょうか。よろしければ拍手で承認をお願いします。

(会場に拍手)

ありがとうございました。

先ほど館長先生が「至福」というお言葉を申されましたが、まさに文学の本質というか、そのものを語っているという感じがします。人生を深く読み取るとか、深く愉しむヒントを与えてもらうというふうな絶好の機会にもしかしたらなるのかも知れない。

自分たちの人生は80年、間もなく人生100年になりますね、そうは言っても人生100年なんですね。自分が人生100年の中で体験できる世界は極々限られている。しかしその限られた体験の世界だけではなくて、文学からたくさんの色々な体験を間接的にする中で、自分の生き方が劇的に変わってくることもあるかも知れない。というふうなことで文学が世の中から無くならないということであろうかと思えます。自分の思いをどう表現していくか、その形が小説であったり、短歌であったり、俳句であったり色々な形があるわけですよね。そういうふうなものを見たり聴いたり読んだりしながら、自分がどっちに影響を受けるのか、そういうふうなことが、さっきの「至福」というところへ繋がって行くのかなと。たった一人でこの文

学館の中において、それを愉しむ時間をたっぷりもらえるのは、まさに至福の時かも知れませんね。そんなことを考えさせられました。

今日は、色々な意見を頂きまして本当にありがとうございました。また次の機会によりしくお願いしたいと思います。ありがとうございます。

○司会

会長には長時間に渡りありがとうございました。次にその他でございます。事務局の方から国道52号線の拡幅工事のことについてご報告いたします。

○事務局

平成29年11月から、国土交通省関東整備局甲府河川国道事務所が芸術の森公園第1駐車場北側の、波打ち歩道（水路）の改良工事及び芸術の森公園北側に歩道設置を行う工事を実施すること並びにイチョウの木を剪定することから、景観が変更になることを説明。

○司会

次第には書いてございませんが、飯田蛇笏、飯田龍太碑の説明板について事務局からご説明いたします。

○事務局

芸術の森公園の中には、南東の角の方に飯田蛇笏の文学碑「芋の露連山影を正しうす」の文学碑がこれは平成4年に舞鶴公園の方から移されて設置されております。そして平成26年11月に、飯田龍太の文学碑が実行委員会において設置されて県の方に寄贈を受けました。文学館の表玄関のすぐ南の方にございまして、これは飯田龍太の「水澄みて四方に関ある甲斐の國」の句が刻まれた文学碑でございます。この特に飯田龍太の文学碑につきまして、お客様、来館された方、あるいは公園を散歩される方から、何と書いてあるのか、誰の碑なのか、がぱっと見てわからないというご意見がありました。このことについては、この文学館協議会でも昨年度にも、何らかの説明が必要なのではないかというご意見を頂きました。これは飯田龍太の直筆のくずし字をそのまま刻んだものでありますので、ちょっとそれを読解するのがなかなか難しいということで、わかりにくくなっていると思います。今はまだ対応ができていないのですけれども、只今サイン関係の業者を呼びまして、景観を損なわずに、かつ分かり易く、どういう形でそしてどの程度の情報量の説明を付けたらよいかというところを検討しております。できるだけ早く対応ができるように準備を進めているところでございますので、そのことをご報告させていただきます。

○司会

それでは本日はご多忙のところご出席をいただき、また長時間に渡りご審議をいただきまして、誠にありがとうございました。頂戴いたしました貴重なご意見等につきましては、今後の文学館の運営に役立てて参りたいと思います。これをもちまして本年度第1回目の文学館協議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。